

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	○身体拘束をしないケアの実践 接遇に心がけスピーチロックゼロの勉強会を行い、言葉かけに対しては職員も注意できるようになってきている。身体拘束はしていない。ユニットの玄関は、外に出てしまう方がいるため施錠を行っている。	ご利用者様の望む介護を踏まえて、スピーチロックゼロに務める。	スピーチロックゼロに向けて、ネガティブリストのセルフチェックを開始した。三ヶ月に一度チェックを行い現状の把握、問題点の抽出、次のアクションへと展開して行く。	12ヶ月
2	6	○身体拘束をしないケアの実践 職員が忙しく目が行き届かない時間帯もあると思われるが、それ以外の時間は少しの間でも、鍵を開けておける時間が長くなることを期待する。	少しの間でも鍵を開けておける時間を作る。	身体拘束委員会で検討し、職員とも検討し、少しの間から取り組んで行く。	12ヶ月
3	10	○災害対策 事業所での訓練に地域の方の参加がないので、コロナ収束後は運営推進会議などで協力をお願いする等の取組みを期待する。	災害対策でも地域連携に取り組む。	運営推進会議などで協力をお願いし、災害対策でも地域連携を図りたい。	12ヶ月
4	26	○チームでつくる介護計画とモニタリング 利用者とは日頃から話し合いの場を設け、思いを聞き取っている。朝の申し送りでも利用者の状況や体調について話し合い、変化があったときにはモニタリングを行い、家族と相談をしてケアをしている。	職員全員が主体的な仕事をする為に、支援計画を考え自分達の考えで介護していく。	職員全員が介護支援計画を立てられるように、指導していく。また計画通り実践できる様、職員間の協力を強化していく。	12ヶ月
5	10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 家族からの要望等はあまりないが、面会に来られた時には、声をかけるようにしている。事業所での生活が落ち着いて過ごせるようになるためにも、できるだけ早く面会が可能になるよう検討している。	ご利用者様やご家族様のご意見・要望を伺いながら、出来る支援を取り組んでいく。	手紙の交換、毎月汽笛便りや写真の送付を行っている。認知症カフェやホームページを活用し、より一層ご利用者様とご家族様のコミュニケーションを支援していく。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。